この秋
悪女の論理が
あなたにしみる。

三億円の生命保険殺人に踊る
二人の女



九州、東京、北陸を股にかけた毒婦
恐喝・詐欺・暴行・傷害——前科４犯
鬼塚球磨子

東大法学部卒、一女あり、離婚。
辣腕弁護士
佐原律子

疑惑 THE GIWAKU



原作・脚色／松本清張

製作・監督／野村芳太郎
主演　桃井かおり・岩下志麻

カラー作品　松竹・霧プロ提携作品／松竹・富士映画共同配給

原作本▮文藝春秋社刊絶賛発売中！

■解　説

彼女が夫を殺したのは間違いない！

10人のうち11人までもが確信している鬼塚球磨子の有罪。が、心証的には真っ黒でも、何一つ物的証拠がない。はたして検察は、世間は球磨子の罪を立証できるであろうか。そして、弁護側は――。

傷害や恐喝の前科がある球磨子は、その強烈なエロティシズムで、大金持ち白河福太郎に取り入り、難なく後妻の座につく。結婚後、彼女が最初に手がけた大仕事は夫に三億円の生命保険をかけること。

「将来のことなんか、どうなるかわかんないからねェ」

次第に本性を現わしていく球磨子に、夫は自分が殺される予感を抱き始めた。そして、死のダイビング。

現代の悪を描いては他に並ぶものがない松本清張の世界を、巨匠・野村芳太郎がダイナミックに描いた今秋最大の話題作。おりからのサスペンスブームの頂点をなし、なおかつ流れを変えたと早くから注目されていた「ネオ・サスペンス第一弾」である。

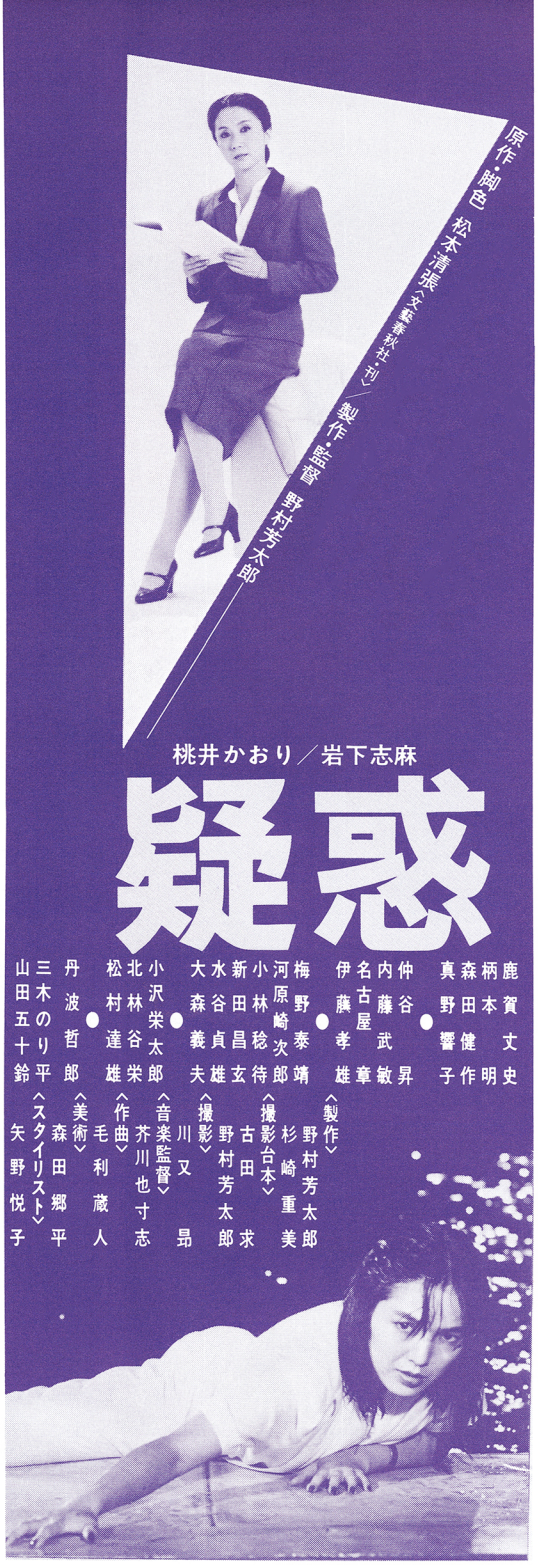
〝九州一の悪〟と称され、いまだに結審していない三億円保険金事件をヒントにした原作『疑惑』は、発表当時、大変な話題になった。映画は、舞台を九州から北陸に、そして主人公を女性に変えて展開される。

〝日本映画史上かつてなかった悪女〟球磨子に扮するのは、「ええじゃないか」「幸福の黄色いハンカチ」などで各賞を総ナメにした桃井かおり。「30代最初の代表作にしたい」と文字通り体当たりの演技が期待できる。球磨子と対極の位置に置かれる弁護士・佐原律子には「鬼畜」「影の車」など清張作品には欠せない岩下志麻。二人の心理的葛藤、かけひき、だまし合い・せめぎ合いは、ほとんど演技を超越するだろうし、本年度演技賞の有力候補になることはまちがいないだろう。最後のどんでん返しまで二転三転していく早いテンポのストーリー展開と相まって、この二大女優がスクリーン上で散らす火花は、後々まで語り草となるだろう。

出演者は、球磨子の元の情夫に若い女性に圧倒的人気を誇る鹿賀丈史。その甘いマスクからは想像もできないこれまた〝煮ても焼いても食えない男〟を演じている。正義の味方気どりの新聞記者を演ずるのは、柄本明。これまでの彼の役どころとは正反対の魅力を、充分に見せてくれる。

他には、丹波哲郎、山田五十鈴、小沢栄太郎、真野響子、仲谷昇と、ひと癖もふた癖もある人々が顔をそろえている。

撮影は名手（ベテラン）・川又昂。北陸の四季の美しさと人間同士の悪の表現の対比が見事。音楽は芥川也寸志。なお、人気スタイリスト矢野悦子がセレクトした〝悪女ファッション〟の数々が、女性客の心をとらえるだろう。





原作「疑惑」
絶賛発売中！
（文藝春秋社・刊）

■ものがたり

それは、夕刻から雨が降り出した夏の暑い夜の出来事だった。

富山の新港湾埠頭で、車が海中に転落。乗っていた地元の財閥・白河酒造の当主白河福太郎（仲谷昇）は死亡したが、後妻の球磨子（桃井かおり）はかすり傷ひとつ負わなかったのである。

この球磨子は、結婚当初から、財産を狙って福太郎を籠絡したという評判で、事実、情夫も存在している。この事故は、泳げない福太郎を殺すための凝装ではないか――関係した誰もがこう疑った。

北陸日日新聞の敏腕記者秋谷（柄本明）が、まず先陣をきった。球磨子の告発キャンペーン記事を書いて、この事故を三億円の保険金目あての殺人事件と報道したのだ。なるほど、物的証拠は今のところない。だが、球磨子が運転しているのを見たという目撃者も出現。かてて加えて、過去に球磨子が情夫と共謀して引き起こした数々の犯罪が明らかにされたことによって、彼女は「限りなく真っ黒」になったのである。

〝女鬼クマ〟〝北陸一の毒婦〟球磨子は、最初、しおらしくマスコミのインタビューを受けていたが、質問が核心にふれると彼らを「ペン乞食！」と罵倒。「警察と対決してやる。証拠は何もないんだ。逮捕なんてできるもんか」とさえ言い放ったことによって、人々は球磨子に対する疑惑を一層深める。

ついに捜査陣は肚を決める。

「容疑はズバリ殺人。これ以外にない」

物的証拠はないままに、球磨子は逮捕された。強気の彼女は、事前に弁護士・原山（松村達雄）に連絡して逮捕にそなえていたが、原山は、裁判の難しさや、もし無罪を勝ち取っても世論の攻撃が厳しいであろうことを考え、中央で花形弁護士として活躍する後輩の岡村（丹波哲郎）に共同弁護人の依頼をした。ところが、岡村は、大方の予想を裏切って、共同弁護人を拒否してきたのである。

落胆する老弁護士・原山。

富山地方裁判所の初公判の日、原山は開廷直後に健康上の理由を言いたて、突如、弁護人の辞任を申したてた。

球磨子の国選弁護人を担当することになったのは女弁護士・佐原律子（岩下志麻）である。彼女は主に民事訴訟が専門で、刑事事件のキャリアはほとんどない。

はじめ、球磨子は律子に心を許さなかった。

「この女もみんなと同じだ。私がやったと思っている」

が、律子は静かに行動を開始する。球磨子の過去をさかのぼって調べ、ぐしゃぐしゃにからまった糸を丹念にほぐすように、一つ一つ疑念を明らかにしていく。稀代の悪女でも、ちゃんとした弁護を受ける権利があるはずだ――律子の理念は、秋谷を内心たじろがせるほどであった――。

9月11日(土)より話題のロードショー

紀伊国屋ビルうら
新宿ピカデリー
(352) 1771

特別ご鑑賞券
￥1200（一般￥1500 学生￥1300の処）
絶賛発売中！